



GAMADASHIMON

益城の
がまだしもん!

—vol.10—

おおくぼあいり

大窪藍葉ちゃん

(下砥川)

プロ目指す小2ピアニスト

始めて2年でアジア 大会金賞

令和2年1月、初めて出場した「ショパン国際ピアノコンクール in ASIA」のアジア大会幼児部門で、金賞に輝いた大窪藍葉ちゃん。現在、飯野小に通う、やんちゃで負けず嫌いな8歳です。今年の同コンクール小学1・2年生部門では、全国大会で金賞、アジア大会で銅賞。さらに令和3年12月に開催された、第54回熊日学生音楽コンクールのピアノ部門・小学生低学年の部では最優秀賞を受賞するなど、数々のコンクールで輝かしい成績を残しています。

そんな藍葉ちゃんがピアノを習い始めたのは4歳。家にピアノがあり、自然に弾いてみたいと思ったそうです。

世界中の人を幸せにするピアニストに

週2〜3回レッスンに通い、レッスンがない日は自宅で練習。平日は放課後に約1時間、休日は約3時間、毎日欠かさ

ずピアノを弾きます。「熊日のコンクールは直前に体調を崩し練習ができず、本番までに感覚が戻るか心配でした」と振り返る母円香さんの隣で、藍葉ちゃんは「演奏は緊張しなかつたけど、表彰式はドキドキした」と笑います。

演奏の他にも、聞き取った音の高さを判断するレッスンを受けたたり、「いろんな音を聞かせてあげたい」という円香さんの思いから、コンサートへ足を運びプロの演奏を聞いたりと、聴音にも力を入れています。

復興まちづくりセンターの開所式で、ピアノの演奏を務める藍葉ちゃんに意気込みを聞いてみると、しばらく考えて「楽しく弾きたい」と照れくさそうに話してくれました。続けて、将来の夢を聞くと「世界中の人を幸せにできるピアニストになりたい」と即答。円香さんをも驚かせるしつかりとした口調で夢を語る、頼もしい藍葉ちゃん。活躍に目が離せません。

下段写真左から／大人顔負けの演奏／2021年3月～2022年1月の間に受賞した賞の数々(本人提供)／指はけがしないよう日頃から大切に

